

介護体験を 聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

第168回 介護体験を聞く会

独居生活からグループホームへ移り、体調が改善し、精神的にも安心された事例の検討

平成27年12月19日
(土) 開催
職員出席者 柳田院長、柳田ケアマネ、柏倉ケアマネ、古谷、厚川、前田、高橋、石川、長谷川、太田、工藤、小野寺各職員
家族出席者 Hさんの長女、次女、お孫さん、野々目さん、藤田さん、柳澤さんその他・石渡さん
「議題」
① Hさん(89歳女性)の事例検討

②在宅介護家族相談会

*「Hさんの事例検討」
検討の目的

独居生活が続いて家族や近隣者の支援も限界になったため、グループホームに入所した。その結果の最近の様子を意見交換。

氏名 Hさん(女性)
生年月日 大正15年1月26日(89歳)
介護度 要介護3
利用開始日 平成27年3月
柳田デイケア利用開始。平成27年6月1日グループホーム入居。

出身地 山形県 趣味 歌が好きで森進一のコンスアートなどに行き、カラオケにもよく行っていた。
性格 明るい、寂しがり屋

会報第167号

平成28年1月20日発行
発行所 (有) 明寿会
住所 川崎区中島1-13-3
電話 044-233-0061
*定例会は最終土曜日です。
(今月は1月30日)です。



年末、グループホームが寒風の東扇島まで全員でドライブしました。

主介護者 長女

*既往歴
アルツハイマー型認知症
高血圧(平成16年3月)
子宮筋腫手術
視力低下(左緑内障平成18年3月)
聴力低下で耳とおい
*現在の内服薬
七物降下湯(シチモツコ

ウカトウ)血管の緊張を緩める作用がある漢方薬
麻子仁丸料(マシニンガ
ンリョウ) 便通をよくする漢方薬
コニール4mg血圧を下げる薬

*生い立ち
大正15年 山形県で生まれる。4人兄弟の3番目。尋常高等小学校卒業。昭和18年(17歳)山口写真館に勤める。

(山形)21年(20歳)日本通運に勤める方と結婚。川崎市川崎町に所帯を持つ。本人は木下海運に勤める。22年(21歳)川中島にて長女出産

23年(22歳)山形県にて次女出産25年(24歳)山形県にて長男出産 伊勢町に自宅購入 30年(29歳)伊勢町にて次男出産59年。夫他界し独居生活となりパート等で働いていた。平成26年10月 同じことばかり言うようになり介護保険申請をする。要介護1となる。

11月 訪問ヘルパーサービス開始。平成27年3月 柳田デイケアを利用

する。
買い物に出かけても帰りが分からなくなったり、電気、ガスを消し忘れて隣の方に迷惑をかけることが多くなった。隣人の方が心配して娘さんに相談する。

6月 介護保険更新で要介護3となる。グループホーム旭町に入居。

*現在のADL
・歩行はゆっくりだが自立。
食事・自己摂取されるが、目が不自由なので食べやすいように井物風にして

いる。
更衣・自力でできるが、着衣の時のみ前後の確認が必要。

排泄・トイレの場所も理解でき介助なし。夜間のみ手引きでトイレ誘導している。

入浴・手の届くところは自分で洗うが、頭、背中、足先は介助が必要。
睡眠・声掛けにて良眠。時々、夜起きてタンスから衣類を出し入れする。

「Hさん、今夜中なので朝起きてからしましょう」と声掛けすると「じゃあ、

まだ寝るね」と言われ眠る。

*入居までの問題点

買い物時、目的ははっきりされていくが、帰り際になるとどこに居るのか、帰り道がわからなくなり、近隣の子供達に自宅まで連れてきてもらう事が数回あった。

病院に行く予定でも、どこに行くのか外出の目的もわからなくなることがあった。

栄養状態もあまり良くなく1日3回の食事ができていなかった。

*入居から現在までの様子と対応

入居当時から自らはあまり話されなく、声掛けを待つているところがあった。

好きな歌をお願いすると喜んで歌ってくださるようになった。

自力で更衣されるが、前後確認できないときもあるので声掛けをして対応している。

何もしないのが嫌いな様子で椅子に座っていても自ら立ち上がり足のりハビリと言われ膝の曲げ伸ばしをしたりする。

*意見交換会

Hさんの長女…それまで電話でも話していたが、話が一方的であったり、受話器が外れたままであったりしたことがあった。

平成二十七年3月に外出後迷子になり、警察からの電話で家族はその事実を知り、パトカーで送り届けてもらうことがあった。その後も隣の町内で帰れなくなり、近隣の中学生が送り届けてくれたこともあった。

同年4月ぐらいから驚くほど部屋が散らかりはじめ、隣家より「姉弟で話しあったほうが良いのでは」とアドバイスされた。同じころに物がなくなるようになった。話すと泥棒にやられたと話すようになった。それでも家族はあまり認知症を疑わなかった。

*院長…地域で支えていたが限界がきて入所を勧められた。顔の表情がキツかったが、(入所後)穏やかな顔になった。石川(ホーム職員)入所当時より筆筒の中身の出し入れをし、納得すると

入眠されています。

高橋(ホーム職員)現在ではグループホームではかの部屋のものを自分の物と思い込み、部屋に持ち帰ろうとする事がある。

Hさんの孫…昔から優しかったが、いまも変わらずやさしいままです。

長谷川(ホーム職員)グループホームでは「歩く辞書」と言われるくらい物事をよく知っており、わからないことがあると「Hさんに聞いてみましょう」となる位です。「ごはんが本当においしいねえ」と言ってお下さる。

院長…グループホームの環境でうまくなじんでいる。

*家族相談会

小幡さん…グループホームに入る前から母はあまり色々な要望をいうことはなかったです。食事は一度に多くは食べなかった。

高橋…1日1食は自ら食べられ、他は介助で食べています。上の入れ歯が合わなくなり、それが入ればもつと食べてくれるかもしれない。

1回の食事が多いとあまり食べられない様です。柳澤さん…今年(平成二十七年)は2回入院したけれど、今はこちらがビツクリするくらいよく食べると。

野々目さん(姉を介護)…自転車に乗れなくなってきたので、遠くへの外出はできなくなってきた。

上の姉は今まで「どうして(下の姉が)介護サービスを受けなければならぬか」と言われたが、この頃は理由がわかってきたようです。

院長…ショートステイにも慣れてきてよかったです。藤田さん(母と叔母を介護)…迷子札を持たせるようにしたら、「とうとう私もこんなの持たされる様になったのね。なくさないようにするわ。」と言っていたが、すぐに紛失した。結局仏壇に置いてあった。

Hさんの長女・次女…一人暮らしだと、何を食べているのか? 雨風酷い日は心配で落ち着かなかつたが、今はすごく安心です。

記録…デイケア 杉山

私が「集団脳」という概念を知ったのは、時実俊彦元東大教授の「人間と脳」を読んだからである。それまで、わたしたちは戦後占領軍教育を受けて以来、「個」

の確立を目指すという教育を受け続けてきた。つまり個人主義の確立こそが人間の目標であり、その精神で

勉学を志してきた。しかし、その結果、振り返ってみると、次第にふるさとや親を忘れていき、友人に敵対意識をもつなど、人間の豊かさ

を失っていったと思う。その回復の努力には大変な労力を要した。

青春多感な時期の多くの青年が、自分とはなにか、アイデンティティをもとめ、旅に出て、本を読み、求道し、魂の精神的彷徨の旅にでていった。

人類の発展史の結実としての大脳をふりかえると、人類には集団脳があり、人類が地上で過酷な環境変化

の中で生き延びて発展し、万物の霊長となったゆえんは「集団」であった。戦後

教育と真反対である。今日の世の中の単位である家庭、の争い、学校や職場の

年末年始の 過ごし方

グループホームでは回想法を行っており、回想法を通して昔の年末年始の話を書きました。

昔は年末の大掃除では仏壇や神棚を1日かけて掃除したり、畳や障子を張り替えたりして、日頃やらない所を丁寧に掃除したそうです。最近では神棚のない家も多いですが、昔は神棚はどこの家にもあったそうです。神棚は女の人が触ってはいけない、神棚の掃除は男の仕事だったそうです。年末の餅つきでは臼も杵もみんな家にあり、親戚がそれぞれもち米を持ち寄ってみんなで餅つきをしたそうです。子供達もたくさん集まるので正月用とは別に餅をつけてみんなに振る舞ったそうです。しめ縄も自分の家で作り、飾ったあとは6日の夜までに外す、飾りは七草の風に当ててはいけないんだとみなさん話して下さ

いました。おせち料理は正月3が日は何も仕事をしなくていいように3日間分を31日の晩に作った。おせち料理は自然の恵みに感謝して祝いの品にするもの。めでたいことを重ねる意味で四段、五段と重箱を重ねた。食べ物にもそれぞれ由来があり、海老は長寿の願い、数の子は子宝に恵まれるように、鯛はめでたい、昆布はよろこぶ、里芋は子孫繁栄、クワイは出世するようにとおせち料理の由来も話して下さいました。年越しそばも自分の家で打って、そばを食べながら紅白歌合戦を観て除夜の鐘を聞いたそうです。お正月には母親が着物と三尺帯を用意してくれて、それを着て初詣に行ったり、近所の神社に行ったり、川崎大師までお参りしたりした。お年玉は穴の開いたお金縁起が良いと5銭とか10銭をもらい、近くのお店でもお年玉として学用品をもらったりもした。7日には七草粥を作って食べた。粥の中にはセリ、

ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、すずしろ、仏の座、スズナを入れた。正月のお腹を休める為に食べたそうです。みなさん昔のことを思い出しながらたくさん話して下さいました。

グループホーム旭町
漆原

『柳田ダイケア
平成28年新年の抱負』

「お・も・て・な・し」の言葉が流行していたのはいつのことでしょう。

昨今では「個人」を大切に、または主張することが主流となっている事が見受けられますが、本来「人」は集団での活動を欲求の根底で求めている。という考えの基に、柳田ダイケアでは集団での活動を様々な体操や作品作りを通して行っています。その中では常に互いへ「お・も・い・や・り」を大切にしていきたくと思います。

個々の作品作りや個別リハビリをする場合でも、隣に仲間がいるからこそ

「上手ね」「私もそうしてみたい」「あの色合いは素敵」「家族にも見せたい」等、様々な欲求や願望、そして目標や目的を伴う活動が生まれるのだと思います。平成28年は介護をする・介護を受けるという立場は取り除いて、スタッフも利用者さんも互いの心を育み、良い雰囲気を作り出すことを目指したいと思えます。

柳田ダイケア室主任
杉山 民



人間関係という軌轢も、元をただせば集団欲を満足する教育ができれば、次第に解決してゆく問題としてある。青年や子どもが閉じこもりや精神的障害者になっていくとき、その予防に集団脳を考えることである。一人部屋にとじこもり、孤独の不安を安定剤でまぎらわす現代医学やり方はただし解決とはならない。同じように老人のアルツハイマー病も、定年で社会集団から切り離され、閉じこもりを起こして発症してくる。いわゆる廃用性萎縮である。脳を使わない(使わせない)ための病気である。現代社会がみずから生み出している社会病、現代病である。時実利彦の「人間と脳」の中にある集団脳、集団欲の満足の方向を教育や社会で考えてゆくことこそが、今日の時代にこそ日本に必要なことである。(柳田診療所 柳田)

『集団欲の重要さ』

私たちは、家庭、社会、国家、民族といったように、いろいろな性格と規模の集団を作って生活しておりますが、利害関係を理屈で作っているのではありません。ひとりぼっちはいやだ、とにかくみんなと一緒に生活したいという集団本能にかりたてられているのです。愛も憎しみも相手があつてのことです。けんかもひとりではできません。私たちが、人間関係とか人間疎外を問題にするのも、集団欲による集団生活を営んでいるからです。

私たちは、いがみあいながらも一緒に生活しようとしておりますし、ある民族は、殺しあいをするながらも一つにまとまろうとしています。これわかりますように、集団欲は非常にきびしい、そしてきわめて重要な本能であることが想像されます。そしてこの想像は、人間を孤独の環境において集団欲をみたさないよ

うにした場合の、精神的、肉体的変化によって実証されています。

北極に十四日間ひとりだけでいたリッター女史は、雪の上に怪物がみえたり、スキーですべる音がきこえたりするような、錯覚や幻覚や妄想を体験しております。長い間、独房にいられていまずと、思考力が弱まり、判断力が狂つてきて、たやすく洗脳されるようになることは、よく知られていることです。先年、マーメイド号で太平洋をひとり旅した堀江謙一さんが、手記に、「なによりもいちばん苦しかったのは孤独にたえることだった」とはつきり書いておられます。そして、英語版の題が“KODOKU”でした。

これらの孤独な環境は、物に見えるし、音は聞こえるのですから、ほんとうの孤独ではありません。最近になって、外国で人工衛星による宇宙旅行に関連して、厳密な条件のもとでの孤独実験が行われていきます。暗黒で完全に防音された実験室に、体温と同じ温度、人間と

同じ比重の液体をたたえ、そのなかに被験者を裸で入れるのです。被験者には、特殊なマスクをつけてさせて、正常な呼吸がでるようにはしておきます。もちろん、自分で手足を動かしたり、声をだしたりすることは禁止されています。すると、二、三時間で、幻覚が現れたり、妄想がおこったりしてきて、精神的にパニックの状態になってまいります。

日本でも、名古屋大学の環境医学研究所で、二人の大学生を被験者にした孤独実験が行われました。この実験における孤独の環境はそんなにきびしいものではありませんでしたが、次第に精神的に不安定になり、一人の被験者は、三日目に、気が狂った言動をするようになったのです。

もっと思いきった実験は、動物を使って行われています。ダイコクネズミを群れから一匹だけとりだして、孤独な環境の間接飼育します。数週間しますと、おとなしなネズミが、神経質になり、粗暴になつて、かみついたりします。そして、一、二週間もつづけると、手におえないような状態になり、そのうえ、尾の皮膚に炎症ができ、次第に広がってくるのです。このようになつたネズミを殺して調べてみますと、内臓器官にも変化がおこっていたり、内分泌腺が、あるいは、肥大していたり、あるいは萎縮していたりするのは、このように、身体的、精神的に異常になつたネズミも、もとの群れにかえしてやりますと、やがて、元気なおとなしい、もとのネズミになるのです。

サルを一匹だけ孤独の環境のもとにおくと、同じように、精神的、身体的に異常状態になります。そして、毛を自分で抜いていって、すっかり丸裸のようになるのです。

食欲をたてば、身体の栄養がわるくなりますし、性欲をたてば、いらいらしてまいります。そのため、気が狂うというやうなことは、まずおこらないでしょう。ところが、

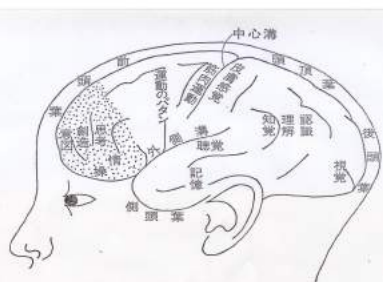


図6 人間の「新しい皮膚」の分業状況

さきに述べましたように、集団欲をたちますと、ただちに精神的、身体的にひどい異常状態になるのです。集団欲がどんなに重要な、そして基本的な本能であるかということがわかります。

私たちは、集団欲がかなえられていないときには、淋しさを覚え、孤独をかこつのです。

(時実俊彦「脳と人間」より)

反対に集団欲がかなえられていないときに、淋しさを覚え、孤独をかこつのです。